

歴史探訪

クラブ! 其の150

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局3635
FAX 22局3811

なつかしの横断歩道橋

あるテレビ番組を見てみると、失われる日本の風景を特集していました。そのひとつに歩道橋がありました。その番組では司会者と解説者が、歩道橋へのそれぞれの思い出を懐かしく語っていました。

市内で現在、歩道橋が設置されているのは、豊島町（豊島横断歩道橋／1970年建設）、六連小学校前（むつび歩道橋／1993年建設）、田原中学校前（はこう歩道橋／1974年建設）、田原南部小学校前（大久保



▲豊島横断歩道橋とプレート（子どもたちに親しまれるように、ひらがな書き）

歩道橋／1968年建設）、野田小学校前2カ所（野田歩道橋／1968年建設、ほとと歩道橋／1996年建設）、福江町高田（福江歩道橋／1973年建設）の交差点です。

豊島町の歩道橋は、旧国道、線路を跨いでいますので、階段や橋の高さが複雑になっています。また、六連小学校前の歩道橋は片方からせん階段です。田原中学校前の歩道橋は、幾度も改修が加えられスロープとつながっています。福江町高田の歩道橋は交差点にかかる市内で最も大きなものです。

また、同様の施設である地下横断歩道も市内には、清田小学校の通路、衣笠小学校の通路（どんどん地下道）があります。

かつては田原市街地のまつり会館前にもありましたが、取り壊されて今

はありません。いずれも学校の近くで交通量の多い道路に設置してあり、事故に遭いやすい子どもを意識していることがわかります。

昭和30年代終わりから、自動車普及しました。「自家用車で休日に家族でドライブ」という家庭が増え始め、交通事故も増加してきました。現在のように、車道と歩道がしっかり分離されておらず、また、車と人間がお互い交通ルールに慣れていない時代

だったので、事故を防ぐ直接的な方法として考えられたのでしよう。全国的に作られたのは昭和40年代でした。通学路の変更や新たな横断歩道の設置などにより安全が確保された場合や老朽化が進んだものが、全国的に、徐々に取り壊されています。

歩道橋の思い出は、通学途中の格好の雨宿りの場でもあり、そこを基点として帰り道の違う友だちとの別



▲清田小前の地下横断歩道

れを惜しむ場でした。何より高い建物が少ない時代、周囲を見渡し四季の移り変わりを空気とともに感じる場でもありました。味気ないクリーム色の歩道橋ですが、交通事故から守るための安全施設だけでなく、積み重ねた時間と地域に溶け込んだ風景となつていのです。

前出のテレビ番組の解説者も、取り壊されていく歩道橋の様子にやるせなさを吐露していました。しかし、横断歩道橋は歩行者の安全を守るべきもの。この歩道橋を見るたび、私たちは交通安全の決意を新たにしなければなりません。その象徴として、これからも大事にしていきたいものです。（増山）

今月の「表紙」

▼東三河地域は、この夏、降水量が極端に少ないため、皆さんに節水対策を呼びかける毎日が続いています。これから台風シーズンを迎えることで、恵みの雨は欲しいですが、災害が起きないことも願わずにはいられません。今回、伊良湖校区が実施した防災対策を参考に「今、何ができるのか」などを、あらためて家族や地域で考えてみましょう。（I）

【表紙の写真】伊良湖小学校